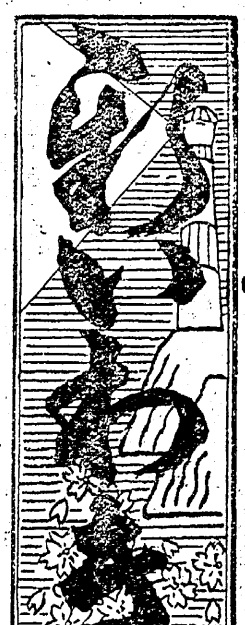
（昭和五年三月廿一日 第三種郵便物認可）　【日刊】　昭和九年五月十二日　新いわき　【土曜日】　第二千百七十五號　（一）

五月十一日　夕刊



休日　日曜　祭日
一ヶ月　二十五錢
郵税十五錢　一部二錢
廣告料　一行　四十錢
場所指定　貳拾錢增
發行兼編輯印刷人　牛谷政喜
發行所　福島縣平町大町二三　新いわき新聞社

水田の換年輪作と蔬菜新品種の作出

縣農試石城分場が研究に沒頭

名産石城ネギを更に改良

縣農試石城分場では特に蔬菜の栽培に於て地方當業に著しき向上を促がし郡農會その他指導當局と協力する精勵に近年殊に目立つて見えるものは曾ては茨城方面から移入されてゐた各種蔬菜を退け石城葱を初め各驛から郡外に移出される蔬菜類の多くなつたことであるが同場では既往幾多の試驗栽培が着々その効果を確信されるに至つた技術的研究に對し更に努力を注がれる筈で本年特に力を傾注されるものに水田の輪作、小南瓜の改良、葱トマト甘藍類の良種を作る爲めに精進されてゐるが右に就ての大体を上ぐれば左記の如くである

水稻と蔬菜とを水田に輪作する試みは今年冬からで從來の二毛作から更に進んで夫々期節に應ずる蔬菜類を水田に耕作し本年は畑、明年は水田に換年輪作を研究するもので畑地の少ない農家或は利益的に何れをとるべきかを確める而して輪作の蔬菜には水田に肥料を殘すので金肥節約等に二段の利があるかどうか之れは勿論勞力は要するが謂はゞ集約的の研討◇次にトマトは一代雜種の利用試驗で交配したものは品質もよく丈夫である事實から如何なるものを組合せるか而して毎年良種子を當業に提供する◇又石城葱を以て聲價を上げてゐるものは千住赤柄系のものだが最近雜ばくになつたので特產の名に耻ない優秀なものを作るため本場から取寄せた十系統を撰拔して統系統分離試驗の開始◇それから早生甘藍の品種比較試驗であるが甘藍の極早生は中野早寄だけで是れ以上早い品種がないかと中野種を標準にして本年は特に外國から輸入したものと試驗栽培する◇小南瓜の改良これは從來の需要關係は大形を歡迎されたものだが台所の立場から殊に都會地には小形なものが向くので將來必ず小南瓜でなければならない時代が來る此の代表的の品種としては宮崎の日向南瓜、高知の早生黑川、千葉の早生黑川だが外觀もよく小形でよいが遺憾ながら味がよくない本縣には全國に誇り得る美味な會津早生小南瓜があるけれども進出の出來ない理由は外觀（皮の色）が虎の班になつてゐるので一見氣持が惡くて受がよくない其所でこの皮の色を改良すべく全國十九ヶ所から取寄せた品種で試驗栽培をなすもの等である

石城郡の徵兵檢査

來る十七日から

本年の檢丁總數二千百八十名

昨年より二百十八名多い

石城郡本年の壯丁檢査は既報の如く來る十七日から平町第一小學校に於て行はれるので町當局及び平署では十六日から宿泊する旅館の振當て等を斡旋中であるが檢丁總數は適令者千六百四十三人前年假決者六十三人入寄留四百七十四人合計二千百八十名で昨年の千九百六十二人より二百十八名を增加してゐる各町村の檢査日割並に人員は左記の如くである

五月十七日大野四一　大浦五三　草野四七◇十八日四倉八一　赤井七三◇十九日川前二七　下小川組合五一　内郷本籍九〇◇二十日湯本一三〇　平窪三九◇二十一日小名濱一〇四　神谷五〇◇二十二日永戸組合五七　磐崎七二　玉川三五◇二十四日高久三七　好間一二七◇二十五日鹿島二五　平町本籍一三三◇二十六日入遠野四七　夏井四四　平町入寄留六二◇二十七日田人四一　勿來九一　錦三七◇二十八日上遠野五七　江名五〇　山田四七◇二十九日植田五五　泉六〇　飯野四八◇三十日澤渡組合五七　川部四〇　渡邊二一　豊間四八◇三十一日内郷入寄留一〇三　（以上）

參謀本部で燈臺視察

將校二十餘名

石城郡豊間村の鹽屋崎燈台に今十一日陸軍參謀本部員山田少將以下將校二十名の視察があつた

石城警親會總會

明日平署にて終つて懇親會

石城警親會では明十二日午後一時から平署會議室に總會を開き會務の報告、役員の改選會員の演說、來賓の祝辭終つて同町性源寺に左記殉職者及び物故せる會員の慰靈祭を執行し午後五時から住吉屋本店に於て懇親の宴を催すが出席八十名位に上るであらうと

殉職者鈴木源七　倉田親之
◇故會員大井川伊勢松　萩晉次郎　佐々木庸三　吉田辨次　奥山成藏　猪狩久五郎　綿引親光　二階堂武雄　福尾文太郎　和田庄作

常識講座

モースと云ふのは乾らくのとだ、牛乳から製出した西洋倉料品の一種で一言にして云へば牛乳を腐らして油だけ採つた樣なもの俗にチースの味が解る樣なら洋食通と云へるなど云

内郷軍人分會の實彈射擊

石城郡神谷村の中神谷に設置する同郡在郷軍人聯合分會の

櫻關室直養傳成る

磐城文政上の偉人直養室櫻關は平藩主安藤信正の儒臣で同藩の信民、信勇、信守の四主に事へ主の往く所必ず其影を止めざるはなかつた而して藩政の大綱に與るもの多きは勿論大學佑賢堂を興して磐城七藩の最高儒府となしその訓敎を受けたものに幾多の士子俊才がある即ち藩下の有志相諮つて先生の傳記刊行會を起し之れを遺して擴く敎へを願つべく諸根樟一氏の著に託し青沼平町長並に同町の富豪諸橋家等が專らこれに盡し就中會務の一切を處理し本會の收支に不足金全部を負擔せる諸橋家の義舉によつて此程漸く完行開係者一般に頒布されてゐるが書は菊判三百頁に亘るもので文政元年櫻關の出生から系譜少年時代の薫陶と修志に初め明治十八年六十八才の死に至るまで細大をもらさず更に死後の頌德追敬を揭げ遺稿等に至るまでを蒐集載錄され讀むものをして崇敬跪拜の念に打たしむるものがある

本年夏期に綴方講習

石城敎育部會で講師は栗原訓導

石城敎育部會に於て例年開催される本年の夏季講習會は來る八月二十七、八、九の三日間平第一小學校講堂に於て綴方の講習を催すことに決し講師に選まれた千葉縣東金小學校栗原訓導に交渉中であるが同訓導は綴方では千葉縣の權威でこの研究に沒頭して珍らしい努力家であると

分場の小島技手

千葉へ榮轉

石城郡神谷村の縣農試分場小島三千雄技手は今回千葉縣安房郡龍田村農業技手に聘されて同場を辭し明十二日出發の筈であるが同氏は神奈川縣立平塚農業學校出身で去る昭和四年七月以來現分場に在職し温室栽培並に蔬菜促成軟化栽培を擔任して良成績を上げてゐる後任は近く決定の由

石城の簡閲点呼

石城郡に於ける本年の簡閲點呼は來る八月中に於て行ふ見込みで司令部對各警察署間に打合せ中であるが多分八月一杯にて終了する日割になるだらうと

福炭の清ケツ法

赤井村の福島炭礦に於ける春季清潔は赤井村から放れて別に來る十三日執行の由

青訓生の該當者報告

町の青年訓練所は年と共に好成績に向いてゐる本年入所の該當者は大正七年四月一日から八年三月三十一日生のもので戸籍寄留簿に基づき調査の上人名簿を訓練所主事宛差廻されてゐるが本籍寄留地に居住しないもの又は商店員徒弟にして寄留届をしないものがあるので各區長に來る十八日東部射擊場に於て昨十日及び來る十三日の兩日午前八時から午後四時まで内郷村在郷軍人分會の實彈射擊がある

福島炭礦に專屬醫院設置

石城郡赤井村の福島炭礦には從來常設醫院なく平町から實川醫師の定期出張を受けてゐたが今回双葉郡津島村の菊地一郎醫師を聘して去る五日から專屬醫院を開設した

福島炭礦の定期種痘

石城郡赤井村の福島炭礦については昨十日同礦全部に對し定期種痘を施行した

第五區青年聯合總會

石城郡永戸村の澤戸尋常高等小學校に於て來る十五日午前九時から第五區青年聯合總會を開催し青年の辯論及び劍道その他各種の競技をなすと

遊廓の牛太と大立廻り

文なしで遊ばう計畫の百姓四名

石城郡草野村の下神谷字内宿三二蹄鐵工津田一郎(三三)同郡飯野村の上荒川字中屋牛馬商坂本文惠(三六)同高久村の下高久字馬橋二〇農鈴木國造(三〇)同草野村農渡邊富藏(三五)四名は昨十日午後一杯元氣で鎌田遊廓に至り買ひ馴染みの豆樓に登樓しやうとすると牛太の爲め以前の貸を拂はねば上げられぬと斷られ拂ふから遊ばせろと借金を支拂つたところ是れからのものは現金でなければ駄目だと云はれたので口論の末同樓方で牛太を袋叩きにすべく大亂鬪を開始し互に打撲傷を負ふ騒ぎへ平署員が駈つけ取鎭めて引致取調べの結果國造だけが馬を賣つた現金二十圓を所持するのみ他は何れも前記の支拂ひで一文もなく酒の上と云ふので說諭の上放還された

小名濱のスリ

石城郡小名濱町生れ鈴木富雄(三三)は同町磐城劇場に於てスリを働いてゐること發覺し昨十日夜捕へられて目下平署に留置取調中だが同劇場その他に於て前後數回に亘る同樣犯罪ある見込みであると

百姓の鷄泥

石城郡泉村の大字本屋字豆腐の内三〇農渡邊喜代治(三四)と同村字内方三農渡邊一實(四三)は去る九日午後十時頃郡内磐崎村の馬玉鐵道踏切附近の氏名不詳宅から鷄三羽を窃取し昨十日夜湯本町に於て賣却金に換えやうとしてゐる所を平署員に檢舉され目下取調べ中である

（鎭守の例祭）

石城郡神谷村の中神谷鎭座郷社立鉾鹿島神社例祭は來る十五日執行されるが餘興には煙火その他の催あり當日は村内に神輿渡御があると

×

石城郡江名町中の作並に折戸部落の鎭守阿波神社では昨十日また同町中の作鎭座の諏訪神社に於ても同じく十日例祭を執行し神輿渡御及び各種の餘興で賑はつたが阿波神社には部落内の寄附千五百圓で石の鳥居を獻納された

×

石城郡江名町の長崎に鎭座する稻荷神社に同社の氏子河野捨松氏並に同氏實弟河野義男氏二名で百五十圓の石造獅子一組(二個)を寄附したと

馬鈴薯の栽培法【六】

石城分場　矢ケ崎諫

害虫として恐るべきものは擬瓢虫である、この驅除法としては比酸鉛溶液の撒布を行ふことである、比酸鉛は水一斗に對し二十匁を溶解し、これにカゼイン石灰を八匁混入して使用する、又ボルドー液の撒布を行ふ場合にボルドー液に比酸鉛を混入して撒布すれば疫病豫防を兼ね一層有効である、

収穫、収穫期は下種期の早晩によつて異るものであることは云ふ迄もないが、大体早生種は下種後約八十日前後、晩生種に於ては九十日前後に至つて収穫されるものである本縣に於て石城地方の如き温暖なる地方では、水田二毛作によるものは六月中旬頃普通畑作に於ける早生種は七月上旬頃で晩生種は七月中旬頃である、中通り地方に於てはそれより約十日位遅れ、會津地方では二週位遅れるが特に會津地方の寒冷なる山間地方では九月中旬乃至下旬頃となる

収穫に際し最も收量の多い時は莖葉の褐色を呈せる際である、而して早期收穫をなす場合には生育中に土中に手を入れ大芋を探り取る場合もある此場合には出來るだけ根元の動搖しない樣に注意して收穫し覆土して置けば更に發育肥大するものである、收穫は晴天土壤の乾燥してゐる時に行ひ土間又は納屋に搬入して一時表面に付着してゐる土を乾燥する程度に充分蔭乾をなして乾燥せしめて後に貯蔵しなければならない、

牛も豚も優良品の自慢
肉の御用命は　三三屋　平町田町

油問屋
關内油店
磐城平　電話長16
特約販賣
ガソリン　モビール油　日本石油株式會社
支店　郡山市驛前通　電話長八二三
支店　茨城縣關本驛前　電話長平潟七三
油槽出張所　平町四丁目　郵便局前

内科、小兒科
入院需應
大森醫院
醫學士　大森勇
平町南町　電二五八番

磐城名産特賣所
御土産物には郷
◆石城みやげ　七濱の生産品　地元産の果實
◆平みやげ　名菓各種
土の名産が第一
平町驛前

診療科目
開業
一、齒科一般　保存科、補綴科、繼齒架工科、齒列矯正科、小兒齒科、齒槽膿漏科、
一、口腔外科
一、レントケン科
中野齒科醫院
院長　日本齒科醫學士　中野惠次
日本齒科醫學士　西川誠
平町田町（松月堂向ひ）電話五〇九番

東京神田火災保險株式會社
東京勧産火災保險株式會社
横濱生命保險株式會社
磐城代理店
河田鐵工場
河田梅吉
營業所　福島縣平町七丁目　電話三二九番　二九五番
本社　東京市日本橋通り三丁目
仙臺支部　仙臺市大町三丁目

磐城共濟病院（福島縣平町電六四一）
毎日午前八時より午後十時迄診療
内科、小兒科　院長　醫學博士　石山謙郎（電話六四一番）
産婦人科　副院長　醫學士　五十嵐雄二（電話三七〇番）
外科耳鼻咽喉科　部長　醫學士　齋藤七五三男
皮膚泌尿器病科花柳病科　部長　醫學士　前澤正（電話一七二番）
X物光線療科　醫學博士　石山謙郎
術生試驗所　技術員　獸醫　高石後利彦郎
藥局　藥劑師　吉本孝雄
事務長　鈴木平雄
◉…病室完備　…入院隨意…◉

石炭　コークス　豆炭
平町郵便局通り
水野石炭店
電話二九九番

新設、電話二二一番
何卒御利用の程を……
平町紺屋町一一
上原家政婦會
（産婆）上原通子

買ふなら　質ふなら　高く　安く
和洋鉄物
問屋
良品廉賣は
磐店のモットー
磐城平町五丁目　電話九二番

産婦人科院　長　木村寅次郎
外科　醫學博士　内木宗八
藥局　藥劑師　玄蕃彌一
平町新川町九一
入院隨意　病室完備
木村病院
電話一六四番

自家醤油製造
諸原料（種麹菌）（カラメル）大勉强
特約販賣　山野邊藥局
平町五丁目角

スペインG・H・N元詰
ゴルフポートワイン
甘味葡萄酒　1・10
御婦人の方には少し水を加へて召し上ると風味一そう佳良です
（平2）　西村屋藥舗　（電3）

貸手車
新規物を格安にお讓も致します
半谷
平町大町若松醫院隣

入院應需
明雲堂眼科醫院
平驛前　電六六九番
●自炊の便あり●

☒一般印刷物も御引受致します☒
新いわき新聞社